



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：核軍縮国際会議

(4月14日付現地紙)

4月17日～18日にテヘランで開催される核軍縮国際会議についての政府高官の発言などに関する現地報道は、以下の通りである。

1. 4月13日、メフマーン・パラスト外務報道官は、「これまでの所、同会議には15カ国から外相レベルが出席し、国連・IAEAの代表など200名以上の外国人ゲストが参加する。ムーサー・アラブ連盟事務総長が出席する可能性が高い」と述べた。
2. イラン国営通信は、天野IAEA事務局長がハイレベルな出席者の一人となるであろうとしつつ、中国、ブラジル、エジプト、レバノン、オマーン、バハレーン、UAE、シリア、イラク、パキスタン、トルコ、アフガニスタン、ベネズエラ、インド、ロシア他から高官が出席するであろうと報じた。
3. 出席者は、国際機関から様々な大陸の高官まで多岐にわたっており、彼らの決定はひとつの「新たな声」として提示することが可能である。
4. アーホンドザーデ法律国際担当外務次官（注：核軍縮国際会議事務局長）の発言（14日付ファールス通信他）：
現在まで、14カ国から外相、10カ国から外務次官、8国際・地域機関から代表者が、同会議への出席用意を表明している。この会議は、当初、政府レベルで開催する予定ではなかったが、一部近隣・友好諸国の外相が同会議への出席に関心を示し、我々もこれを受け入れた。我々の「原子力は皆のためであり、核兵器は誰のためでもない」というメッセージが伝わることを希望する。16日には、会議参加者の名前・情報を公式サイト [www.tehranicd.ir (英語閲覧も可能)] に掲載する予定である。